

北海道農業・農村の概要

北海道農政部より発表されている「北海道農業・農村の概要」が、平成27年4月に更新されましたので紹介いたします。

[平成27年4月 北海道農政部]

北海道農業の地位・特徴

●北海道においては、全国の約4分の1の耕地面積を生かし、稲作、畑作、酪農などの土地利用型農業を中心とした生産性の高い農業を展開。

●平成25年の農業産出額は、10,705億円で全国の約12.5%を占める。

●本道農家の1戸当たり耕地面積は、都府県の約15倍にあたる23.4ヘクタール、販売農家に占める主業農家の割合は都府県の20%に対し71%と、大規模で専門的な経営を展開。

●本道の農業・農村は、食料の安定供給といった基本的役割に加え、国土の保全などの多面的な機能を有しており、道が平成9年度に行った調査によると、農業産出額を大きく上回る1兆2,581億円の評価。

●平成24年の北海道の食料自給率は200%(概算値)であるとともに、国産供給熱量の約2割を供給するなど、我が国における食料の安定供給に重要な役割を發揮。

北海道農業・農村の動向

●耕地面積は毎年減少しており、平成26年は114万8,000ヘクタール。

●認定農業者など担い手への農地の利用集積は年々進展しており、平成25年3月の集積率は86.2%。

●本道農業・農村の農家戸数は年々減少しており、平成26年の販売農家数は約4万戸。また、農業労働力の高齢化も進行しているが、都府県に比べると若い農業者の割合が高い状況。

●平成25年の農外からの新規参入者は88人で、前年に比べ3人減少。農家子弟を含めた新規就農者の総数は、近年、概ね600人～700人で推移し、平成25年は603人が就農。

●認定農業者は、平成5年の制度創設以来着実に増加していたが、近年は横ばいで推移しており、平成26年3月末現在、3万964経営体。

●農業生産法人は毎年増加しており、平成26年1月1日現在、2,928法人。

●コントラクターは増加傾向にあり、平成25年は325組織。

●本道は、気象条件や土壌条件が異なることから、それぞれの地域において特色ある農業を展開。

●農業産出額では、麦類、豆類、いも類、工芸農作物、乳用牛の全国に占める割合が高く、そのうち麦類は全国の過半数を占める。

●品目別の生産量(平成25年)では、小麦、ばれいしょ、大豆、小豆、インゲン、ソバ、てん菜、タマネギ、生乳など多くの品目が全国一。

●クリーン農業の推進成果であるYES!clean登録集団数は、平成26年産で55作物、118市町村で延べ402集団と、地域的な広がりも進展。

■北海道農業の全国シェア

区分	単位	北海道(A)	全国(B)	A/B(%)	年次
耕地面積	千ha	1,148	4,518	25.4	26年
販売農家戸数	千戸	40	1,412	2.8	26年
農家人口	千人	154	5,388	2.9	26年
農業就業人口	千人	102	2,266	4.5	26年
農業産出額	億円	10,705	85,742	12.5	25年
国産供給熱量	kcal/人・日	208	942	22.1	24年

*資料:農林水産省「耕地面積調査」、「農業構造動態調査」ほか

■本道と都府県の農家の比較

区分	単位	北海道(A)	都府県(B)	A/B(倍)	年次
1戸当たり経営耕地面積	ha	23.4	1.6	14.6	26年
1戸当たり乳用牛飼養頭数	頭	115.3	51.2	2.3	26年
基幹的農業従事者65歳未満割合	%	64.9	35.5	1.8	26年
主業農家数/販売農家数	%	70.5	20.1	3.5	26年
農業依存度	%	90.3	42.8	2.1	25年

*資料:農林水産省「農業構造動態調査」、「畜産統計」ほか

■北海道農業・農村の多面的機能の評価額(単位:億円)

区分	評価額	内訳
国土保全機能	7,405	洪水防止6,143、土壌浸食防止32、水資源かん養543、大気浄化687
アメニティ機能	4,149	景観保全2,464、保健休養1,044、生態系保全641
教育文化機能	1,027	自然教育1,017、農業実務研修10
計	12,581	

*資料:北海道農政部「農業・農村の多面的機能の評価調査」(10年3月)

■耕地面積等の推移(単位:千ha、%)

区分	H7	H12	H17	H22	H24	H26
耕地面積	1,201	1,185	1,169	1,156	1,153	1,148
田	240	235	228	225	224	223
普通畑	418	414	412	414	414	414
牧草地	540	532	525	514	512	508
担い手への利用集積率	48.5	58.6	79.4	87.5	86.2	—

*資料:農林水産省「耕地面積調査」、北海道農政部調べ

注:担い手は認定農業者及び市町村基本構想水準到達者

■農家戸数、農業就業人口等の推移[販売農家](単位:戸、人、%)

区分	H2	H7	H12	H17	H22	H26
農家戸数	86,704	73,588	62,611	51,990	44,050	39,700
農家人口	376,565	311,711	261,160	211,929	172,779	156,800
農業就業人口	208,965	173,530	152,387	131,491	111,324	101,600
65歳以上率	20.8	25.2	31.2	34.1	34.4	37.2

*資料:農林水産省「世界農林業センサス」「農業構造動態調査」

*平成26年の「農家人口」については、平成25年現在の数値を掲載

■新規就農者数の推移(単位:人)

区分	H7	H12	H17	H22	H24	H25
新規学卒就農者	417	343	331	302	223	230
Uターン就農者	53	192	267	337	312	285
新規参入者	31	64	55	61	91	88
計	501	599	653	700	626	603

*資料:北海道農政部調べ

■認定農業者数、農業生産法人数の推移(単位:人、%)

区分	H7	H12	H22	H24	H25	H26
認定農業者	3,659	13,481	32,823	31,763	31,410	30,964
農業生産法人	1,559	1,794	2,642	2,770	2,834	2,928

*資料:北海道農政部調べ

●1経営体当たりの農業所得は、平成25年は639万円と前年から増加。また近年、低下傾向にあった農業所得率についても、平成25年は25.9%と前年から増加。

●経営部門別の農業所得は、酪農経営において大幅に増加したが、水田作経営と畑作経営は減少。所得率はいずれの経営部門においても、前年から改善。

●近年、道内各地において地元のこだわりの農産物を地域内で加工し、農産物の付加価値を向上させる地域内発型の取り組みが増加。

●6次産業化等の推進により、道内における農業生産関連事業体数は平成24年現在で3,330件。

■コントラクター数の推移(単位:組織)

H3	H8	H12	H17	H22	H24	H25
20	48	94	229	311	325	325

*資料:北海道農政部調べ

■YES!clean登録集団の推移(単位:集団数)

区分	H12	H17	H22	H24	H25	H26
作物数	8	47	53	54	55	55
市町村数	8	104	115	116	117	118
延べ集団数	11	244	376	390	397	402
延べ生産者数	975	8,851	11,455	11,811	11,863	11,957

*資料:北海道農政部調べ

■農業経済の動向(単位:千円、%)

区分	H17	H21	H22	H23	H24	H25
農業所得	5,150	5,858	6,026	5,812	5,934	6,387
総所得	6,551	7,217	7,482	7,196	7,359	7,877
農業所得率	28.3	25.8	26.3	24.8	24.6	25.9

*資料:農林水産省「農業経営統計調査」

第4期北海道農業・農村振興推進計画の概要

策定趣旨

本道の農業・農村を取り巻く情勢の変化や課題に的確に対応し、将来に向けて持続的に発展する本道農業・農村づくりをめざして、農業・農村の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「北海道農業・農村振興条例」に基づき策定

計画期間

平成23年度～27年度

施策の推進方針

平成16年3月に策定した「北海道農業・農村ビジョン21」で示した北海道農業・農村の将来像の実現と、道独自の生産努力目標の達成に向けて、関係者が一体となって、農業・農村の振興に関する施策を総合的・計画的に推進

農業・農村の振興に関する施策の推進方針

推進方針1
需要に応じた安全・安心な食料の安定供給とこれを支える持続可能な農業の推進

推進方針2
北海道農業・農村を支える意欲ある人づくり

本道の優れた潜在力を最大限に活用

安全で良質な農産物をクリーンな北の大地で安定的に生産
個性が活きる活力ある農村づくり

推進方針3
農業生産の基本となる優良農地の確保・整備と効率的な利用

推進方針4
農業を核とした産業展開と快適で豊かな農村づくり

ビジョン21で展望する北海道農業・農村の将来像

我が国の食料自給率向上に最大限寄与する本道農業

「北海道農業・農村ビジョン21」の描く将来像

